

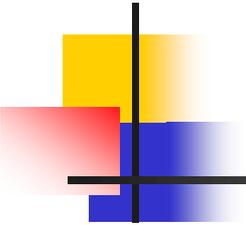
2018中期計画の進捗状況

2018-2020

2019年5月24日

鉦研工業株式会社

経営管理本部



目 次

1. 事業環境
2. 成長戦略
3. 売上高の状況
4. 原価率の状況
5. 固定費の状況
6. 設備投資
7. 研究開発投資
8. 財務目標

1. 事業環境(1)

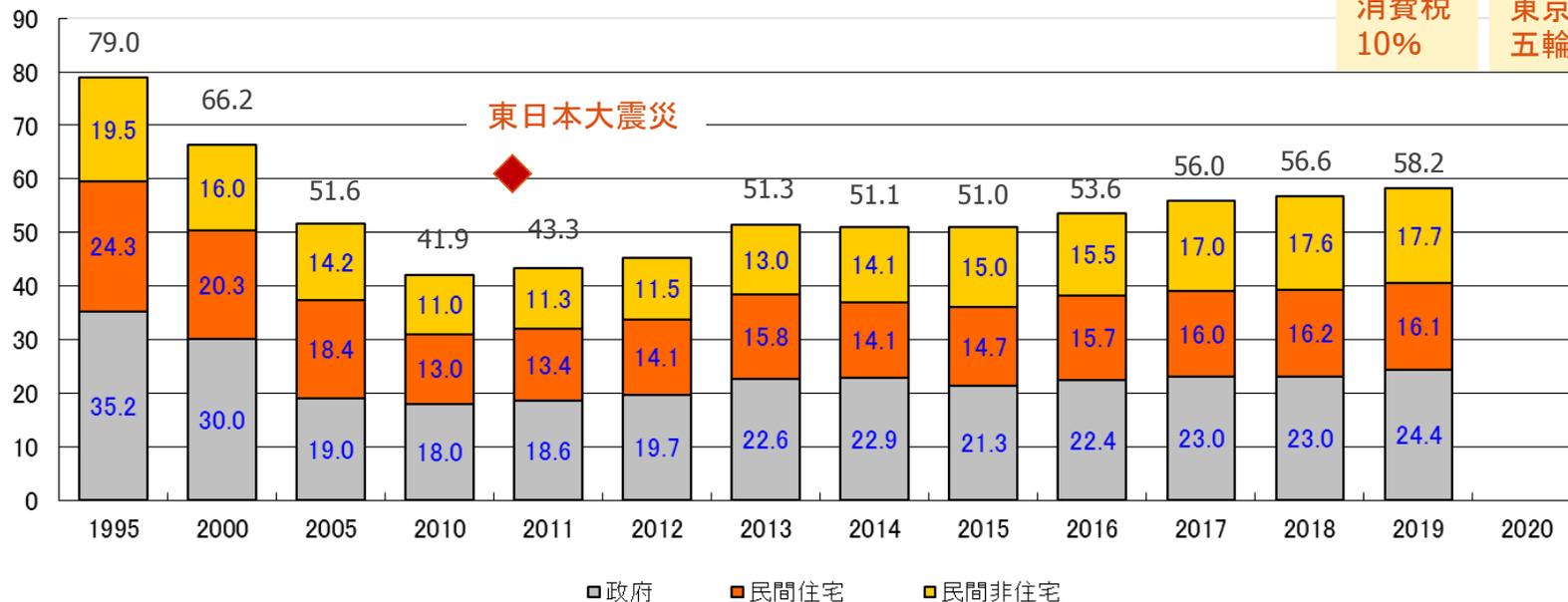
(建設経済研究所 2019年1月30日発表数値)

(兆円)

消費税
10%

東京
五輪

大阪
万博



国内建設投資は2019年まで微増、東京五輪後の先行きは不透明

ニッチ市場ながら成長が見込める分野

- ・ リニア中央新幹線トンネル(長尺コントロールボーリング)
- ・ 整備新幹線・高速道トンネル(先進調査ボーリング、地盤改良)
- ・ ビル基礎工事(アンカー工事)
- ・ クリーンエネルギーの利用(地熱、地中熱、温泉、波力・小水力発電)
- ・ 海底資源調査回収、他

1. 事業環境(2)

売上
影響

東日本大震災関連投資ブームの峠越え
⇒主力RPDの出荷減少⇒特機の受注に注力

X

BM工事は鉱山関係がなく小口工事に集中

△

リニア中央新幹線建設工事関連の長尺コントロール
ボーリングが複数の地区で始まり、本格化は未だ先
だが工事の売上増に貢献

○

北海道、北陸等における活発な新幹線・高速道路の
延伸工事⇒トンネル先進調査ボーリング極めて好調

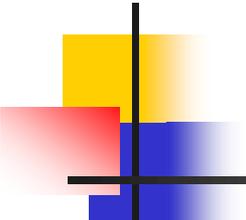
◎

東京五輪関連施設の建設工事が本格化⇒首都圏に
おけるアンカー工事好調

○

海外旅行客の増加継続⇒ホテル温泉開発好調

○



2. 成長戦略

原価率 の改善

- 特機[○]の原価アップ撲滅
- 多能エンジニア育成による工事原価の低減

固定費 の低減

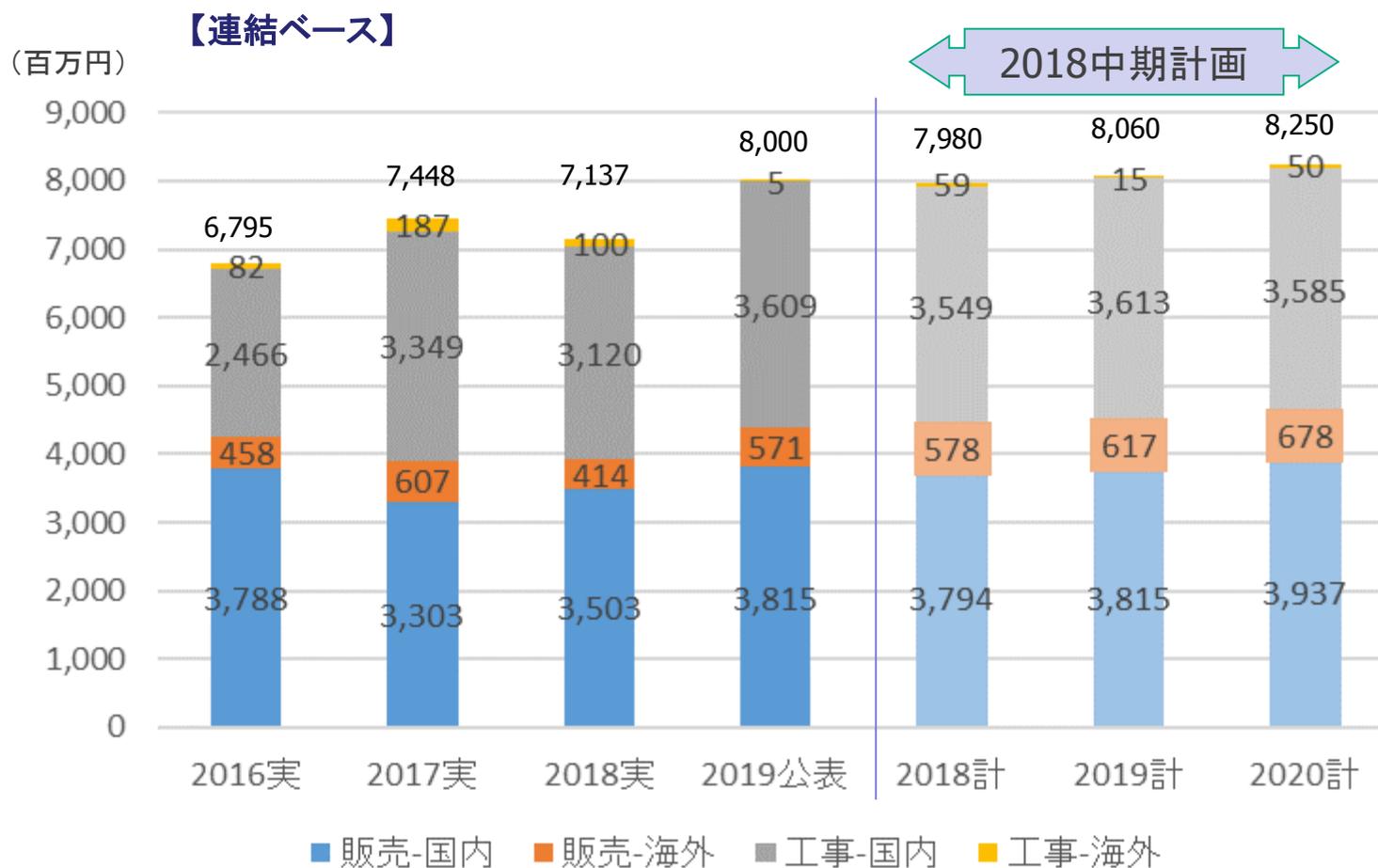
- 生産性10%向上
- シニア社員対象に総人員を10%削減
- 厚木工場リニューアル工事を中断

売上の 拡大

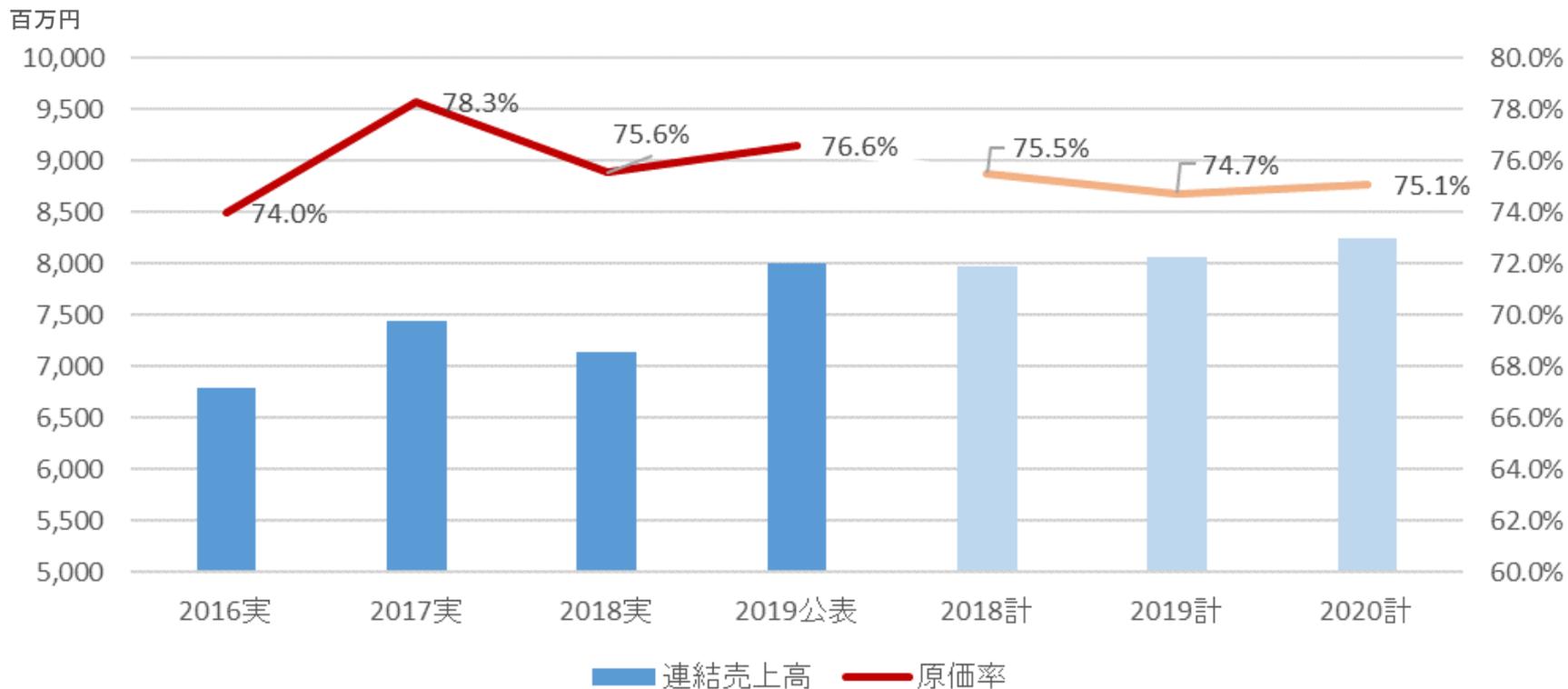
- 主力製品の次世代後継機を国内市場投入
- ローカルニーズ対応機をアジア市場投入
- コントロールボーリング工事と機材販売注力
- 海底資源調査と再生可能エネ技術の実用化
- ONE & ONLYの施工技術力アップ

3. 売上高の状況

ボーリング現場の生産性向上ニーズに応える新製品の市場投入、リニア中央新幹線南アルプストーンル工事、鉱山向けBM工事、海外市場開拓等により80億円の売上を見込む。



4. 原価率の状況(1)

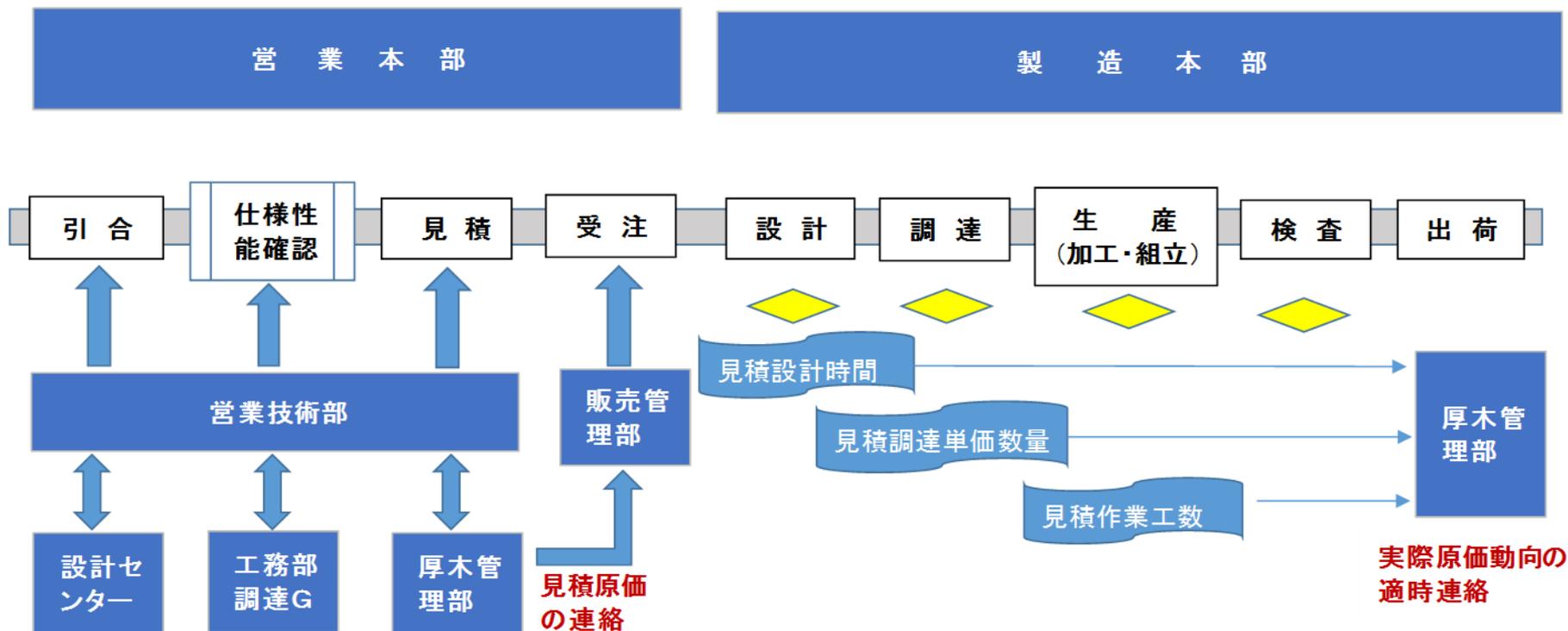


- コンカレントエンジニアリング強化による特機原価アップ撲滅
- 多能エンジニア育成による工事原価の低減

4. 原価率の状況(2)

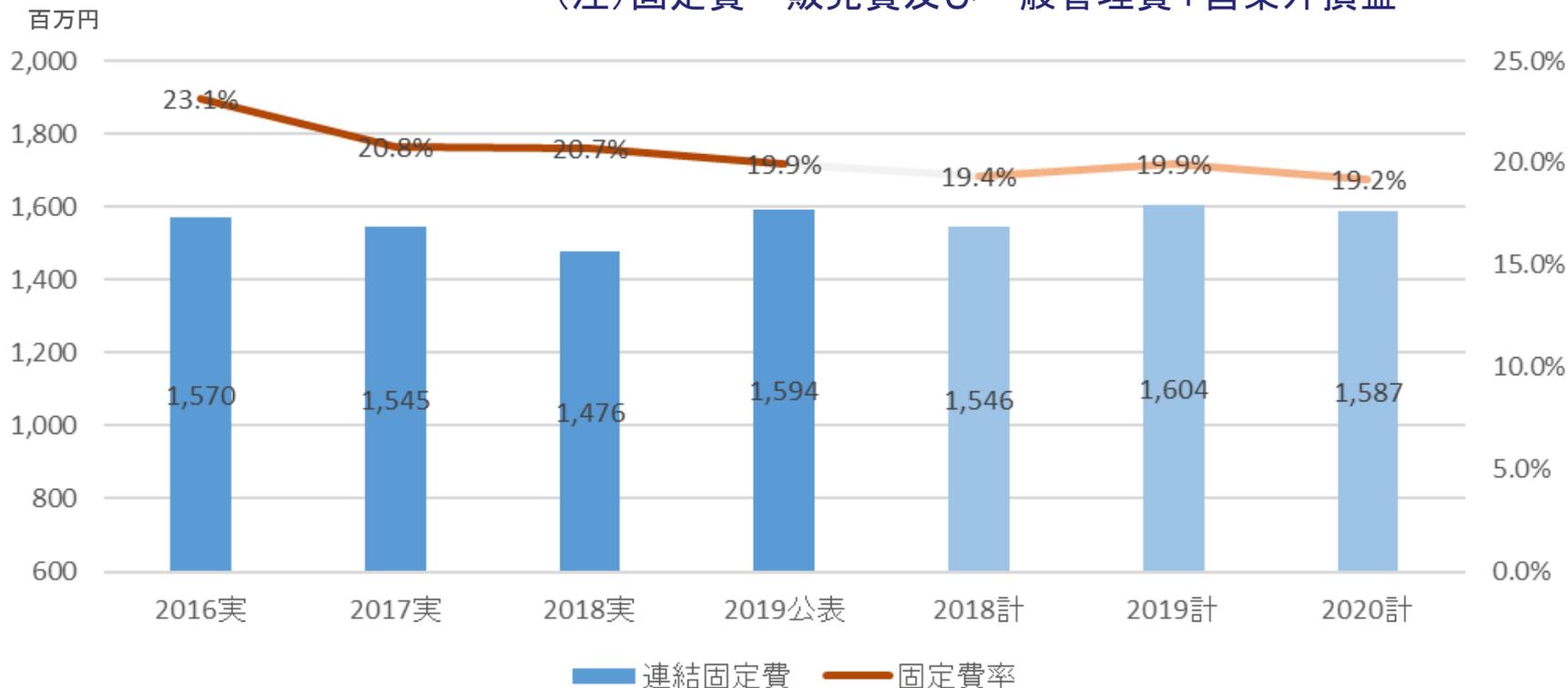
特機の特価アップ撲滅体制の構築

特機(特別仕様の受注生産機)の特価アップを二度と起こさぬよう、営業技術部を新設し、見積・受注段階からコンカレントエンジニアリングを強化して、見積もった通りの原価でモノづくりができるよう社内体制を構築



5. 固定費の状況

(注) 固定費 = 販売費及び一般管理費 + 営業外損益



- 会議時間短縮、ペーパーレス化等による生産性10%向上
- 65歳以上嘱託社員雇止めによる総人員10%削減
- 厚木工場リニューアル工事を中断

6. 設備投資の状況

総額 11億円

進捗状況

1) 厚木工場リニューアル投資

工場構内に新工場棟を増築、既存工場棟を修理し、増産、効率向上、更新

建築設計まで完了
工事着手は2020年度

2) 施工工事用機材投資

コントロールボーリング、大口径立坑掘削、温泉掘削等の能力増強

コントロールボーリング用
特殊機材

3) 諏訪工場投資

機材メンテナンスセンター、開発試験場としての機能拡大

機材保管用テントハウス2棟
新設

4) 業務効率化のためIT投資

販売管理システム一新、新生産管理システムを本体生産に導入、経費精算キャッシュレス化のための会計ソフト

新生産管理システムの運用開始
経費精算キャッシュレス化を本
社で実施

7. 研究開発投資の状況

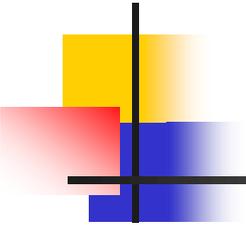
総額 4億円

進捗状況

- | | |
|-------------------------------|-------------|
| 1. 主力製品の次世代後継機の開発 | 1機種:市場投入開始 |
| 2. ダム・グラウチング用のボーリング自動化ロボットの開発 | 試作機の性能試験中 |
| 3. アジア市場開拓のための製品開発 | 試作機の改良設計中 |
| 4. 海底資源調査用コア採取ドリルの実用化 | 海洋試験実施中 |
| 5. 大容量・地盤改良用高圧ポンプの開発 | 試作機の性能試験中 |
| 6. 新機構振動ドリルの開発 | 試作ヘッドの性能試験中 |
| 7. ハンマーサブ・ロッドサブの製品力向上 | 性能試験中 |
| 8. トンネル先進調査技術のさらなる高度化 | 関連技術の調査中 |
| 9. 難地質条件下での長尺コントロールボーリング技術 | 関連技術の調査中 |

8. 財務目標の状況

		2017年度 実績		2018年度 実績		2019年度 見込み		2018中期経営計画			
								2018年度		2020年度	
		連結	単体	連結	単体	連結	単体	連結	単体	連結	単体
売上高	百万円	7,448	6,364	7,137	6,165	8,000	7,168	7,980	7,000	8,250	7,400
営業利益	百万円	71	-43	272	131	290	250	420	350	490	450
営業利益率	%	1.0	-0.7	3.8	2.1	3.6	3.5	5.3	5.0	5.9	6.1
経常利益	百万円	69	11	267	125	280	240	410	340	470	430
当期純利益	百万円	-30	-44	179	87	200	175	320	280	320	300
ROE	%	-0.9	-1.3	5.1	2.6	5.5	4.9	8.9	8.0	7.8	7.6



2018中期計画の進捗状況

これで説明を終了します
ご清聴ありがとうございました